

地域を支えている方々のつながりを
大切にしていきたいには

特定非営利活動法人 麦畑

代表理事 増川信行

増川信行 1957年生まれ

- NPO法人麦畑 代表(デイサービス琴平 創設)
- ところざわ地域ケアの会 会長
- 早稲田大学 人間科学部 地域連携プロジェクト
ぴあワーカの会 プロジェクトメンバー
- 在宅ケア学会 会員
- 埼玉県認知症ケア専門士会 代表
- 地区介護保険サービス事業者連絡会 会長
- 認知症ケア専門士 認知症指導管理士
- 調理師

専門は、**認知症予防食生活支援指導員**としての高齢者が安全な食生活をするための支援ならびに地域への発信を行っています。

事例-1

まだ軽い認知症状の高齢者（83歳女性）

介護保険認定、要支援1となり運動系のデイサービス利用となった。今まで2週に1度ある地域のサロンにも通っている。

企画・運営している民生委員さんから「地域ケア会議」で苦情のような指摘があった。

「介護保険のデイサービスを使っているのに、地域でもサロンで面倒を見なくてはならないのはおかしい」

事例-2

介護保険申請のために主治医が長年通う高齢者のために意見書を書いた。

認定下り要介護1。

包括からケアマネジャーにプランが移った。

何の連絡もなく訪問医療に変更となった。

事例-3

毎日自宅の前で日向ぼっこするお婆さんがいた。

地域でも有名で前を通ると皆声をかけていた。

お婆さんも挨拶をして、子供などにはおしゃべりをしていた。

確かに物忘れはあるが迷惑はかけていない。

たまに日向の加減で自宅前から少し移動した。

移り住んできた若い夫婦が「車に触られたくない、施設に入れてくれ」と家族と包括に苦情を何度も訴えてきた。

家族は大変に困り介護認定を受けた。

事例から

- 地域の色々な立場の支援者間の共有が「個人情報の保護」という向き合い方のために当たり前のようにされていない。この点に関して狭山保健所から「所沢市は近隣の他市に比べて10年以上遅れている。」と指摘されている。
- 「介護保険」の本来の意義が理解されていないケースに数多く出会うことが多い。
 - 「在宅」は何故大切なのか？
 - 「地域」の暮らしの中の関係性は？
 - 「福祉」とは？
 - 「地域包括ケア」関係者の考えはバラバラでは？

専門職として「地域」に関わり発信。

- ・地域包括支援センターと「認知症サポーター養成講座」や「高齢者の食事術」などの講座で食事との向き合い方について発信。
- ・シルバー人材センターと「フレイル予防・脳健康教室」を企画。三か所の公民館で教室を開催。また「市営老人憩いの家」4か所でフレイル予防教室を毎月開催する中で各箇所でも年に2回の脳健康教室開催。
- ・ところざわ地域ケアの会として、毎月介護や認知症に関わる多職種メンバーで学びと交流そして連携のためにzoomサロンを開催。
- ・「埼玉県認知症ケア専門士会」の取り組みとして「認知症ケアパートナーズセミナー」開催。認知症ケアの質を少しでも進化出来るよう。

地域の中で「介護」の役割

15年ほど前、地域包括支援センターから「介護予防教室」の企画運営を依頼されました。介護職の勉強会を開催していたことから、介護認定を受けていない地域の高齢者向けに「要介護にならないように！」と、介護の側から伝えて行こうとなりました。

地域に出てみて気が付いた事

- ①地域の高齢者は「介護」のことをまったく知らない。
- ②自分たち介護も地域の人達の「思い」を知らない。
- ③民生委員、町内会、ボランティア活動と介護はつながっていない。

「地域」の中で専門職として何をして行くことが「地域包括ケア」なのか。

「地域」との関係性をつくるポイント

- 自分たちの「言葉」で地域の中で介護について、特に「認知症」について話していかななくてはならない。
- 自分たちが地域に行かせていただき、「生活しにくさ」を抱える前の高齢者の「思い」を聞いておくことは大切です。
- 地域を支えている方々（民生委員、町内会、ボランティア）の活動と役割を理解していることは大切です。
- 地域のささえあいの社会資源が多くあります。また大学の研究室が熱心に地域を見ていることもあります。
- 医療職との関係性は、当事者を支援していくとき重要です。介護側の「責任・権限・専門性」を自己認識していることが大切。

地域での動き

- 介護予防教室を、企画運営した。

○認知症予防 ○音楽に合わせた運動 ○相談会

- 介護事業者、介護職の横のつながりを時間をかけて作った。

○勉強会 ○交流会 ○見学会

- 地域の会社・団体に認知症サポーター養成講座を開催した。

○中学校 ○民生委員 ○コンビニエンスストア ○地域会社

- 「介護」を知ってもらうためのイベントを開催した。

○介護まつり ○地域の祭りに出店 ○介護フォーラム

地域での「多職種」のつながり

地域を支えあう団体の代表者が、「地域包括ケアシステム」について、それぞれの立場や取り組みを多団体に話す機会をつくる。中心は医療職が担うが、民生委員や町内会がどのように感じているかが重要です。

この時「介護」の役割がとても大切です。高齢者が罹患しやすい疾患の理解、**生活習慣**ついてなど一般の方々に近い専門職として医療職との間で多職種のつながりのつなげ役になりうる。

在宅介護現場力

- 「対話」の場がケアをする人を育て、今より一歩、在宅介護現場を働きやすくできます。
- 埼玉県医師会ではACPの必要性を各地域で一般の市民の皆さんに伝えて行きます。
- ACPとは、所沢市京谷先生「ACPは終末期だけではない。日常の暮らし」

○高齢化の進行が一層厳しくなる埼玉県においてあらためて「在宅」における介護が果たす役割は大切です。(医療行為をしてほしいのではなく、身体、気持ちの変化に気づける意識を育てて欲しい。)

○在宅の高齢者を診ている医師の視点から「介護従事者」を気にしてもらえ連携できると助かります。(毎日のように定期的に関わる、また長い時間本人と過ごしている。また家族と対話する事が多いのは介護従事者)

あったかとかと地区介護フォーラムinバレンタイン 「地域で言葉のスキンシップを」

- ー認知症になりにくい町へ、認知症になっても安心して暮らせる町へー
- スキンシップといえば、肌と肌の触れることによる安心の確かめ合いをイメージです。
- 言葉を通して心に触れる事もあります。もちろんそれが、支えあいにつながる事と思います。そして眼差しや表情で気持ちを伝え合う日本人の特融の表現もあり、声をかけたりやさしく見つめることが「ケア」となりえると感じています。
- 小さなsosに耳をかたむけ、眼にとめていける町づくりは、より素敵な町への一歩だと思います。
- 「地域で言葉のスキンシップを」やさしく声をかけるとともに、話を聴かせていただける事の大切さもみんなで分かり合っていければと感じています。

まちかど保健室

所沢地区における「学習・交流・相談の場」として、毎回たくさんの方にご参加いただいております。

【開催例】

- ・第一部：「ウォーキングでいきいき元気！ ～安全に効果的に歩くために～」

講師：「よしかわクリニック訪問リハビリテーション」

作業療法士/神谷 徹氏 理学療法士/安達 岳氏

ウォーキングの効用について、靴の選び方、歩く前の準備や楽しんで歩くポイント等を学ぶ。

- ・第二部：「個別相談会」、参加者同士の交流の時間となっております。

※参加費無料。 会場：所沢市中央公民館 学習室6号(2階) 定員：先着30名

とこ地区ささえあいを考える会

多職種が顔の見える関係づくりを行い、互いの専門性を理解し、この地区の地域包括ケアシステムの構築に取り組むことを目的に発足した会です。

医療・介護・地域づくりの関係団体代表者によりメンバーが構成されています。

【とこ地区ささえあいを考える会とは】

構成員：医師会、歯科医師会、薬剤師会、柔道整復師会、鍼灸師会、介護保険サービス事業者連絡会、所沢地区民生委員・児童委員協議会、所沢地区町内会連合会の代表者

○参加者のつながりを更に深める場としてご活用いただくために公民館や文化会館での交流会開催。新年会を開催。

とこ地区ささえあい塾



地域の医療・介護職とお近くにお住まいの皆様が“顔の見える”関係になり安心・安全に暮らせるまちづくりを目指しています！

【対象エリア】

日吉町,東町,旭町,御幸町,寿町,有楽町,北有楽町,宮本町,元町本町,元町東金山町,西所沢,星の宮,喜多町

とこ地区ささえあいを考える会 交流会



顔の見える関係づくりの先に、多職種間でどのような連携ができるか、安心して暮らせるまちづくりのため地域に何が必要か、いっしょに考える機会にしたいと思います

お問い合わせ

とこ地区ささえあいを考える会

所沢市社会福祉協議会 地域福祉推進課
所沢地域包括支援センター 担当:岩垣

TEL : 04-2926-4426